

環境部

住んで良かったと思われる若槻の環境のために

環境部長 長田 進

コロナ禍ですが事業を中止することなく実施出来た事に関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。
環境部では第二次若槻まちづくり計画に基づき、3点の基本計画を実施しました。

1) 生活環境、河川及び溜池等の保全、環境改善活動

生ごみ堆肥化はコロナ禍のなかでも参加者が多く人数を制限して実施しました。河川及び溜池等の水質調査、外来植物駆除は、各区の皆様の御協力を得て実施しました。生活環境は想定外のことが起こります。日頃から監視と関心を持つことが大事です。



2) 生活環境や自然環境に関する学習会、観察会

昭和の森公園など自然環境を活用して樹木、野草、野鳥の観察会を実施しました。キノコのコマ打ちは参加者を制限するほど盛況でした。若槻地区には自然遺産が数多く有り、ガイドマップ更新のためモデルコースの調査を行い、参加者からは貴重な意見をいただきました。



3) ホタルの里づくり

ホタル保護保全の学習会を開催し、土京川河川敷の整備をしました。ホタルウイーク(6月26日～7月4日)は鑑賞者約1,400名、ホタル目撃数900匹、ホタルさんへの手紙50通(若槻地区在住者19、地区外31通)であり、梅雨時で雨の降る日もありましたが、関心の高さが感じられました。コロナ感染もなく関係者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

最後に第三次若槻まちづくり計画を令和4年度に策定し令和5年度から推進する予定です。皆様からの環境に関するご意見をお待ちしています。

福祉健康部

感染予防対策を徹底した福祉・健康活動の推進

福祉健康部長 横山 博道

令和3年度は、新型コロナ禍2年目、どのようにしたらコロナ感染のリスクを正しく恐れ、過度に自粛せずに事業計画を実行できるか、試行錯誤の1年でした。全国的に、ここ2年間各世帯では外出自粛生活が続ぎ、人との交流が減少してきたため、コロナ禍前に比べ福祉・健康面でいろいろな問題が生じてきています。そうした中、本年度は前年中止となった取組も少しずつ工夫しながら無理のない方法で福祉・健康活動を実施してきました。

<主な取組内容>

1) サロン事業(まちの縁側いこいの場)

感染予防を徹底して7地区で「サロン活動」が実施され、実施できなかった地区でも2地区でフレイル予防冊子を作成し住民に配布する事業が行われました。

2) 介護予防・日常生活支援総合事業

「はつらつ体操」が通年9地区で実施されました。

3) 研修会、介護の集い

長野市地域包括ケア推進課による「地域づくり講座」と地域包括支援センター(若槻ホーム)による「認知症サポート養成講座」を実施しました。

4) 男性の料理教室、健康食講座

感染予防の観点から、人数を減らし、出来上がり料理はテイクアウトとして、調理実習を行いました。料理をする機会の少ない男性には好評でした。

5) 地域たすけあい事業、福祉移送サービス事業

公共交通機関を利用できないお年寄りのため福祉自動車による病院等の送迎、家事援助サービスを実施しました。年々、利用会員の増加に対して、協力会員(特に移送サービス)の高齢化・後継者不足に苦慮しています。この場をお借りして、ボランティア立候補のお申し出をお待ちしております。事務局までご連絡下さい。

このほか、「お母さんのなんでもトーク」「びっかり教室」「福祉相談事業」「婚活推進事業」「虫の音が聞こえる事業」等を実施しました。一方で、「ながの健やかプラン21」、「地域福祉大会」は感染警戒レベルが5以上に急拡大したため中止を余儀なくされました。

次年度も新型コロナ禍の収束が見通せない状況にはありますが、地域の皆様が元気で明るく過ごせるためにも、工夫をしながら「交流の場」の創出に努めていきたいと思っております。役員・代表委員・協力団体・ボランティアの皆様の引き続きのご支援・ご協力をお願いします。

